

2020 年高知県学校健診後治療調査結果

2021 年 7 月 30 日

高知保険医協会

2020 年度学校健診後治療調査について

- 「2020 年高知県学校健診後治療調査結果」は、2020 年 2 月 8 日に高知県下の公立小学校 189 校、公立中学校 105 校、公立高等学校 37 校、特別支援学校 14 校、区分に該当しない 2 校を対象に調査票を送付し、207 校（回収率 59.7%）から 3 月 15 日までに回答が寄せられました。回収率の内訳は公立小学校 112 校（回収率 59.3%）、公立中学校 54 校（回収率 51.4%）、公立高等学校 37 校（回収率 86.5%）、特別支援学校 14 校（回収率 42.9%）、区分該当なし（小中一貫）2 校（100%）、不明（小・中いずれかと思われるが、調査票に区分記載なし）1 校でした。
- 今回の学校健診後治療調査は 2016 年度調査に引き続くものです。前回調査対象は「歯科」に限りましたが、今回はすべての健診を対象としました。そのため「歯科」は前回調査数値と比較、他の健診は全国調査数値と対比しました。
- 学校健診は学校保健安全計画により 6 月 30 日までに実施することとされています。ところが 2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大から遅れて実施された事例が目立ちました。
- この「治療調査結果」は、高知県教育員会の調査趣旨のご理解の下、高知県公立小学校、中学校、高等学校等の養護教諭の皆様方のご協力でまとめることができました。厚く感謝いたします。

	送付数	回答数	回答率
小学校	189	112	59.3%
中学校	105	54	51.4%
高等学校	37	32	86.5%
特別支援学校	14	6	42.9%
該当なし	2	2	100.0%
不明	—	1	—
合計	347	207	59.7%

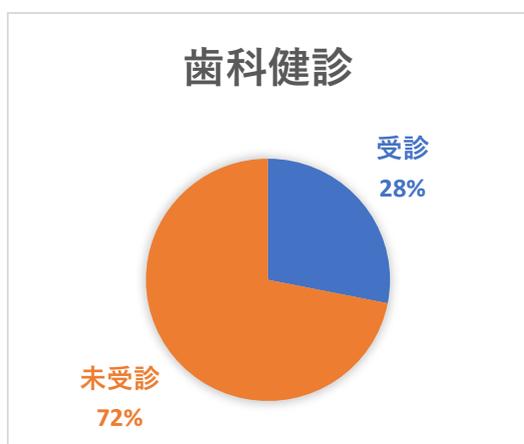
歯科

高知県内で歯科健診を受けた児童・生徒のうち、37.5%（前回 2016 年度小中学校調査では 46.0%）が要受診と診断されたが、要受診と診断された児童・生徒の 71.9%（前回 64.4%）が「未受診」であった。

新型コロナ感染拡大による「感染の恐れ」を理由にした未受診者の増加が原因となり、前回調査と比較し未受診者割合が増加した。養護教員からは「病院受診を控えているという声を多く聞いている」「病院受診を控える傾向が強く、こちら積極的に勧められなかった」「歯科受診勧告書を出しても受診しない事例が増えた気がする」との指摘がされるなど、感染拡大により学校健診時期が

遅れたり、養護教員自身もコロナ禍において受診を強く勧められていない現状が明らかになった。

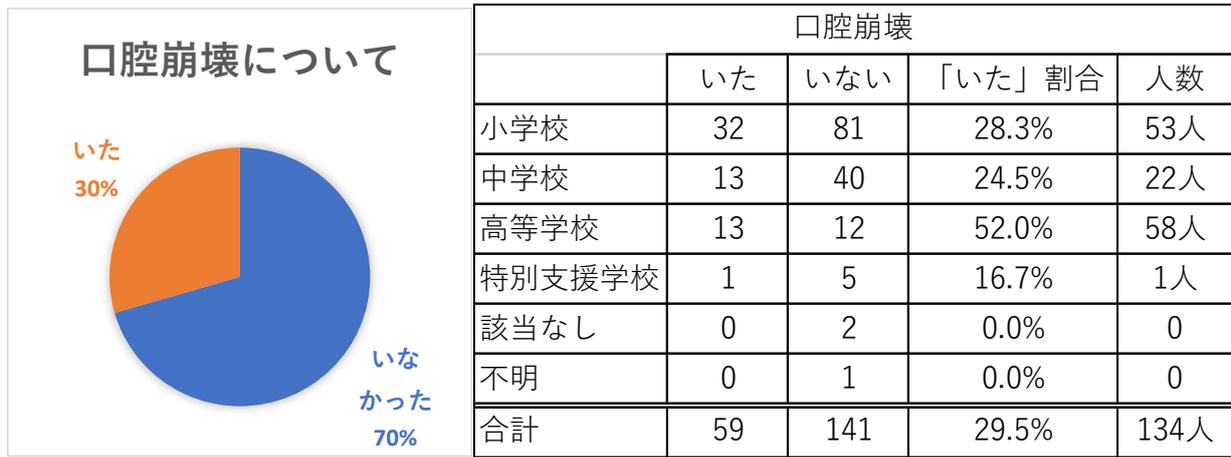
口腔崩壊（むし歯が10本以上、歯の根っこしかない未処置歯があるなど咀嚼が困難な状態）の児童・生徒たちの有無については、「いた」と回答した学校が今回も29.6%と、2016年度前回調査（29.8%）と同様の結果となった。むし歯のある児童・生徒数は、歯磨き習慣やフッ素塗布などにより近年減少しているが、極端にむし歯が多く、口腔内が放置されている児童・生徒は存在している。事例では、「小学校5年まで一度も受診していなかったため、永久歯の臼歯の歯根しか残っていない状態だったが、治療を進め2月から治療を始めている」という改善例もあったが、「う蝕のある児童は何本もある場合が多く、治療に行っていない家庭が多い」（小学校）、「乳歯は抜けるから構わないという保護者が多い」（小学校）、「受診勧告を無視する生徒は保護者も同じような感じます。家に帰っても親子がスマホで時間を潰して会話もしない事例が少なくない」（高等学校）など歯科保健意識の低さに止まらず、家庭における基本的な生活習慣の欠如を問題とする指摘もあった。また「児童の特性により歯科医療機関での治療に抵抗があり、保護者も悩んでいるが受診が難しい」事例もあった。



歯科健診割合		人数
受診	28.1%	3,788
未受診	71.9%	9,678
要受診	37.5%	13,466
歯科検診人数		35,863

「歯科健診」後の状況

歯科健診を受けた児童・生徒の数															
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数													
		[診断後の対応状況]													
		受診した		受診していない											
①	小学	17935	人	①	小学	7269人	40.5%	①	小学	2832人	39.0%	①	小学	4437人	61.0%
②	中学	7307	人	②	中学	2898人	39.7%	②	中学	582人	20.1%	②	中学	2316人	79.9%
③	高校	10188	人	③	高校	3116人	30.6%	③	高校	330人	10.6%	③	高校	2786人	89.4%
④	支援	123	人	④	支援	26人	21.1%	④	支援	6人	23.1%	④	支援	20人	76.9%
⑤	該当なし	191	人	⑤	該当なし	86人	45.0%	⑤	該当なし	34人	39.5%	⑤	該当なし	52人	60.5%
⑥	不明	119	人	⑥	不明	71人	59.7%	⑥	不明	4人	5.6%	⑥	不明	67人	94.4%



歯科「口腔崩壊」状態について

回答が寄せられた 学校数	「口腔崩壊」の児童・生徒がいた			いなかった
	[「口腔崩壊」の内訳]			
	むし歯が 10本以上ある	未処置歯の歯が 何本もある		
① 小学校 112校	32校 28.6%	30校	3校	81校 72.3%
② 中学校 53校	13校 24.5%	12校	1校	40校 75.5%
③ 高校 25校	13校 52.0%	13校	0校	12校 48.0%
④ 支援学校 6校	1校 16.7%	1校	0校	5校 83.3%
⑤ 該当なし 2校	0校 0.0%	0校	0校	2校 100.0%
⑤ 不明 1校	0校 0.0%	0校	0校	1校 100.0%

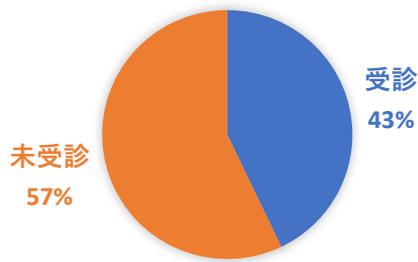
眼科

眼科健診（視力検査をのぞく）は回答 207 校中 156 校（75.3%）で未実施となった。一方、視力検査は 1 校を除き全てで実施された。視力検査人数に対する眼科検診を受けた人数の割合は 14.6%（全国 9.3%）に過ぎない。

眼科健診をうけた児童・生徒のうち、要受診と診断されたにもかかわらず、未受診であった児童・生徒は、57.1%（全国 55.4%）、視力検査の場合は、67.6%（全国 58.3%）であった。また「眼鏡が必要と思われる視力測定結果があり家庭連絡を行っても、受診につながらない」（中学校）、「眼鏡を常時使用しているが、定期的な健診をしていないため、視力に合っていない」（小学校）など、眼鏡購入がままならない家庭状況もうかがわれることから、眼鏡購入の公的補助制度が望まれる。

新型コロナ感染拡大に関連して、You Tube やゲーム、スマホ、SNS に費やす時間の増加と「視力低下の児童が昨年に比べ増加している」という指摘があった。

眼科健診



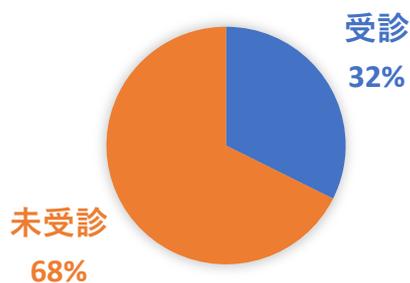
眼科健診割合		人数
受診	42.9%	15
未受診	57.1%	20
要受診	0.7%	35
眼科検診人数		5,186

「眼科健診」後の状況

眼科健診を受けた児童・生徒の数

① 小学	3922	人	健診にて「要医療機関受診」と診断された人数				
			〔診断後の対応状況〕				
			受診した		受診していない		
① 小学	20人	0.5%	① 小学	9人	① 小学	11人	
② 中学	415	人	0.0%	② 中学	0人	② 中学	0人
③ 高校	777	人	0.0%	③ 高校	0人	③ 高校	0人
④ 支援	72	人	0.0%	④ 支援	6人	④ 支援	9人
⑤ 該当なし	0	人	20.8%	⑤ 該当なし	0人	⑤ 該当なし	0人
⑥ 不明	0	人	0.0%	⑥ 不明	0人	⑥ 不明	0人
			0.0%				

視力検査



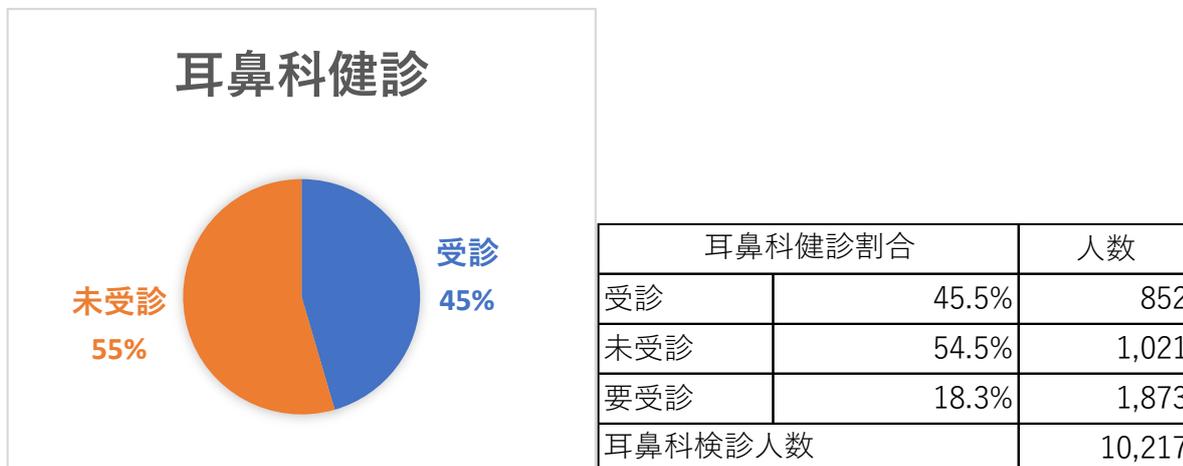
視力検査割合		人数
受診	32.4%	4,730
未受診	67.6%	9,877
要受診	41.2%	14,607
視力検診人数		35,487

「視力検査」後の状況

視力検査を受けた児童・生徒の数				健診にて「要医療機関受診」と診断された人数			
				〔診断後の対応状況〕			
				受診した		受診していない	
①	小学	18055	人	① 小学	6465人	① 小学	3335人
②	中学	7502	人		35.8%		51.6%
③	高校	9505	人	② 中学	3811人	② 中学	2912人
④	支援	111	人		50.8%		76.4%
⑤	該当なし	195	人	③ 高校	4190人	③ 高校	3524人
⑥	不明	119	人		44.1%		84.1%
				④ 支援	36人	④ 支援	20人
					32.4%		55.6%
				⑤ 該当なし	46人	⑤ 該当なし	31人
					23.6%		67.4%
				⑥ 不明	59人	⑥ 不明	55人
					49.6%		93.2%
				⑤ 該当なし	15人		
					32.6%		
				⑥ 不明	4人		
					6.8%		

耳鼻科

耳鼻科健診は回答 207 校中 94 校 (45.4%) で未実施となった。耳鼻科健診 (聴力検査を除く) を受けた児童・生徒のうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった子どもの割合は、54.5% (全国 57.4%)、聴力検査は 38.2% (全国 41.2%) だった。

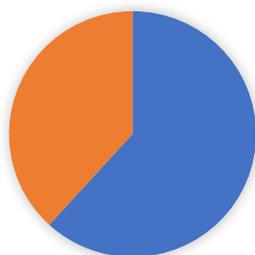


「耳鼻科健診」後の状況

耳鼻科健診を受けた児童・生徒の数			健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
			〔診断後の対応状況〕					
			受診した		受診していない			
① 小学	6676	人	① 小学	1383人	① 小学	732人	① 小学	651人
② 中学	2569	人		20.7%		52.9%		47.1%
③ 高校	777	人	② 中学	456人	② 中学	107人	② 中学	349人
④ 支援	94	人		17.8%		23.5%		76.5%
⑤ 該当なし	101	人	③ 高校	0人	③ 高校	0人	③ 高校	0人
⑥ 不明	0	人		0.0%		0.0%		0.0%
			④ 支援	15人	④ 支援	7人	④ 支援	8人
				16.0%		46.7%		53.3%
			⑤ 該当なし	19人	⑤ 該当なし	6人	⑤ 該当なし	13人
				18.8%		31.6%		68.4%
			⑥ 不明	0人	⑥ 不明	0人	⑥ 不明	0人
				0.0%		0.0%		0.0%

聴力検査

未受診
38%



受診
62%

聴力検査割合		人数
受診	61.8%	236
未受診	38.2%	146
要受診	1.4%	382
聴力検診検診人数		27,647

「聴力検査」後の状況

聴力検査を受けた児童・生徒の数			健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
			〔診断後の対応状況〕					
			受診した		受診していない			
① 小学	14508	人	① 小学	263人	① 小学	173人	① 小学	90人
② 中学	5655	人		1.8%		65.8%		34.2%
③ 高校	7091	人	② 中学	50人	② 中学	26人	② 中学	24人
④ 支援	110	人		0.9%		52.0%		48.0%
⑤ 該当なし	195	人	③ 高校	60人	③ 高校	30人	③ 高校	30人
⑥ 不明	88	人		0.8%		50.0%		50.0%
			④ 支援	2人	④ 支援	2人	④ 支援	0人
				1.8%		100.0%		0.0%
			⑤ 該当なし	5人	⑤ 該当なし	4人	⑤ 該当なし	1人
				2.6%		80.0%		20.0%
			⑥ 不明	2人	⑥ 不明	1人	⑥ 不明	1人
				2.3%		50.0%		50.0%

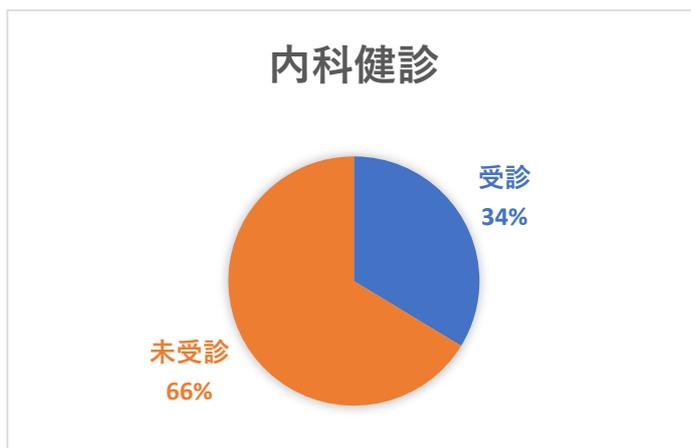
内科関連

内科診断を受けた児童・生徒のうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった児童・生徒の割合は、66.3%（全国 53.6%）だった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための一斉休校中に、肥満の児童・生徒が増加したとの報告が多数寄せられたが、「食生活や運動など家庭の協力が得られない」（小学校）、「上限体重を超えているため受診を進めるが、定期的な通院に至らない」（小学校）など改善の取組みには困難がある。

また「ゲームを長時間しているためかイライラしやすい」「臨時休校により生活習慣が乱れたことなどで、不登校が増えた。無気力感を抱える生徒もいる」など、不登校の増加していることについては、心の問題を抱えているための不登校であるとの指摘がある。

「（心の問題、精神疾患など）健診ではかかっていないが困難事例が多発している」「ADHD等は親の困り感がないと専門機関へ行かないし、予約しても半年後」「心臓検診で引っかかっても、『学校から受診するように言ってきたのだから、医療費は学校が負担してくれないのか』という問い合わせが毎年1件はある」（高等学校）など、厳しい状況が明らかになった。



内科健診割合		人数
受診	33.7%	451
未受診	66.3%	887
要受診	3.8%	1,338
内科検診検診人数		35,458

「内科健診」後の状況

内科健診を受けた児童・生徒の数				
			健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
			〔診断後の対応状況〕	
			受診した	受診していない
① 小学	17985	人	① 小学 814人 4.5%	① 小学 510人 62.7%
② 中学	7332	人	② 中学 294人 4.0%	② 中学 210人 71.4%
③ 高校	9689	人	③ 高校 217人 2.2%	③ 高校 159人 73.3%
④ 支援	140	人	④ 支援 3人 2.1%	④ 支援 1人 33.3%
⑤ 該当なし	193	人	⑤ 該当なし9人 4.7%	⑤ 該当なし 6人 66.7%
⑥ 不明	119	人	⑥ 不明 1人 0.8%	⑥ 不明 1人 100.0%
			① 小学 304人 37.3%	
			② 中学 84人 28.6%	
			③ 高校 58人 26.7%	
			④ 支援 2人 66.7%	
			⑤ 該当なし 3人 33.3%	
			⑥ 不明 0人 0.0%	

未受診について

高知県は全国平均と比較すると眼科健診を除き「要受診率」が高く、「未受診率」も一部の健診を除き高い数値を示している。

未受診の理由について、養護教諭に尋ねたところ、一番多かったのは「健康への理解不足」63.5%（全国 57.0%）だった。2番目が今回は「新型コロナ感染による受診控え」48.6%（全国 46.8%）が次に多く、3番目が「共働き」29.1%（32.1%）、4番目が「無関心」26.4%（27.4%）と傾向は全国と同様だった。

高知県は乳幼児等医療費助成制度により小学校卒業までは全市町村で医療費が原則無料（※）のため、「経済的困難」を未受診要因とした回答は11.3%と少ないが、高校では46.4%と急増し3番目となっている。一方歯科検診では、歯列・咬合の異常が指摘された場合は矯正治療が必要となるケースがあるが、歯科矯正治療の医療保険適用範囲はごく狭い範囲に限定され、乳幼児等医療費助成制度からも除外されるため、自費治療（自由診療）となることが未受診率を押し上げている可能性がある。

未受診の児童・生徒は、家庭環境に何らかの問題を抱えている可能性があるが、今回の調査では、新型コロナウイルスの感染拡大という要素が加わったことで、医療が必要な児童・生徒が十分な受診をできていない現状が明らかになった。

未受診についての自由記載欄では「ネグレクト傾向の家庭」「受診するほどではないという保護者の医療に関する考え方」（小学校）など保護者要因の他に、「へき地であり近くに専門医がおらず通院困難」「生徒自身の多忙」（中学校）という理由を上げた回答があった。

※「乳幼児等医療費助成制度」は、大病院の紹介なし初・再診料、歯科の金合金、差額ベッドなどの「保険外併用療養費」、「入院時食事療養費」（一部自治体を除く）には適用されない。また歯科矯正など保険適用から除外された医療行為等には給付されない。なお、国保、協会けんぽ、健保組合

等のいずれにも未加入のいわゆる「無保険者」は、乳幼児等医療費助成制度の適用からも除外されている。

「要受診」と「未受診」の割合				
項目	健康診断で「要受診」とされた割合		「要受診」とされたが受診していない割合	
	高知県	全国	高知県	全国
歯科	37.5%	31.1%	71.9%	62.3%
眼科	0.7%	4.6%	57.1%	55.4%
視力検査	41.2%	36.9%	67.6%	58.3%
耳鼻科	18.3%	13.5%	54.5%	57.4%
聴力検査	1.4%	1.4%	38.2%	41.2%
内科	3.8%	3.7%	66.3%	53.6%

未受診の理由（上位1位～4位）

※回答 148校

理解不足	94校
コロナによる受診控え	72校
共働き	43校
無関心	39校

「未受診」の要因

	① 小学校 80校が回答	② 中学校 35校が回答	③ 高校 28校が回答	④特別支援学校 3校が回答	⑤該当なし 2校が回答
1理解不足	54校 67.5%	18校 51.4%	20校 71.4%	2校 66.7%	0校 0.0%
2コロナによる受診控え	39校 48.8%	17校 48.6%	14校 50.0%	1校 33.3%	1校 50.0%
3共働き	26校 32.5%	11校 31.4%	5校 17.9%	0校 0.0%	1校 50.0%
4無関心	18校 22.5%	11校 31.4%	8校 28.6%	2校 66.7%	0校 0.0%
5ひとり親家庭	17校 21.3%	9校 25.7%	6校 21.4%	0校 0.0%	2校 100.0%
6経済的困難	9校 11.3%	6校 17.1%	13校 46.4%	1校 33.3%	1校 50.0%
7心身の状態が不安定	7校 8.8%	2校 5.7%	5校 17.9%	1校 33.3%	0校 0.0%
8発達障がいがある	1校 1.3%	2校 5.7%	2校 7.1%	0校 0.0%	0校 0.0%
9その他	6校 7.5%	3校 8.6%	3校 10.7%	0校 0.0%	0校 0.0%

新型コロナ影響事例

新型コロナによる影響事例の有無については、回答のあった 191 校のうち 48 校 25.5% (全国 40.3%) の学校が「影響があった」と回答した。全国平均と比べると、「影響があった」と考える学校数が少ないが、この調査からは理由はわからない。

影響事例では、突出して多かったのは「肥満児童・生徒の増加」91.7% (全国 46.4%)。二番目が「視力低下」25% (全国 36.2%)、三番目が「保健室登校の増加」18.8% (全国 19.0%)、四番目が「むし歯のある児童の増加」10.4% (14.2%) と全国平均と比べ数値には差があるが順位は同じだった。

自由意見欄からは小学校からは「You Tube やゲームで生活リズムが崩れた生徒が多い」「2020 年 1 月と比べ、7 月測定で肥満度が 10%以上増えており、9 月と 1 月の測定結果では肥満度は減少していることから、2020 年 3 月から 4 月の自粛が影響している可能性がある」、中学校では「体力低下」、高校では「体力低下のためかケガが増えた」「スマホ老眼と指摘された生徒がいた」という回答があった。

新型コロナ影響事例 (上位 1 位～4 位)

※回答 191 校

肥満の増加	24校
視力低下	14校
保健室の利用の増加	9校
むし歯のある児童・生徒の増加	4校

「新型コロナ」影響事例について

	① 小学校 105校が回答	② 中学校 53校が回答	③ 高校 25校が回答	④ 特別支 援学校 6校が回答	⑤ 該当な し 2校が回答
影響があった	27 校 25.7%	13 校 24.5%	3 校 12.0%	3 校 50.0%	2 校 100.0%
影響はなかった	76 校 72.4%	40校 75.5%	21 校 84.0%	3 校 50.0%	0 校 0.0%

[影響があった内容]

	① 小学校 105校が回答	② 中学校 53校が回答	③ 高校 25校が回答	④ 特別支 援学校 6校が回答	⑤ 該当な し 2校が回答
1肥満児童・生徒の増加	15 校 55.6%	6 校 46.2%	1 校 33.3%	1 校 33.3%	1 校 50.0%
2視力低下の児童・生徒の増加	6 校 22.2%	4 校 30.8%	3 校 100.0%	0 校 0.0%	1 校 50.0%
3保健室利用の増加	6 校 22.2%	1 校 7.7%	2 校 66.7%	0 校 0.0%	0 校 0.0%
4むし歯のある児童・生徒の増加	2 校 7.4%	1 校 7.7%	1 校 33.3%	0 校 0.0%	0 校 0.0%

影響のあった児童・生徒数	87人	46人	19人	19人	36人
--------------	-----	-----	-----	-----	-----

終わりに

未受診の要因として関連が深いと思われる家庭状況については「健康状態に対する親の理解不足」「共働き」「無関心」「ひとり親家庭」「経済的困難」など、健診後の受診につながらない背景がある可能性がうかがえます。そして更に、新型コロナウイルス感染症拡大による「受診控え」が加わり、児童・生徒を取り巻く健康状況が悪化していることが分かりました。家庭や保護者任せにしない受診しやすい環境作りが求められます。

一方で高知県では高知市と所得制限を設けている土佐市を除き中学校卒業まで乳幼児等医療費助成制度の給付により一部負担金が生じないことから、貧困は大きな要因ではないという指摘があります（例えば「助成制度で無料なのに受診しないのは、保護者の意識が低いため」等）。しかし逆に一部の町村を除き助成制度から除外される高校生になると、未受診の要因として「経済的困難」が46.4%と急増することからも、今回の調査から見えてくるのもやはり貧困との関連です。加えて医療費助成対象年齢の児童であっても、保護者の突然の失業で国保料の保険料が負担できないことなどを理由にした、国保加入手続き自体を取らないいわゆる「無保険者」は乳幼児等医療費助成制度からも除外されてしまいます。

高知県の医師・歯科医師580名の団体である私達高知保険医協会は、教育や健康の平等が失われていくことのないように、これからも県民と共に国の責任である憲法25条「生存権」に基づく社会保障の充実を求めていきたいと考えています。

以上

<資料>

歯科分野事例	
小学5年生まで一度も受診していなかった為、永久歯の臼歯において歯の根しか残っていない状態であったが、治療を勧め2月より治療を始めている。	小学校
児童の特性上、はみがきが困難であった。歯科医には受診済。	小学校
現在歯23本中乳歯未処置歯10本、永久歯未処置歯1本、要観察歯2本。	小学校
要注意乳歯が7本ある。	小学校
虫歯が9本の児童はいました。	小学校
知的障害があり、歯科受診をしているが進まないため、う歯8本、歯の根しか残っていない(奥歯)になっている。	中学校
虫歯が12本。	高等学校
歯の根しか残っていないかどうかまでは今の歯式では確認できないが相当数いると思われる。小中の頃からC1～C4の区別や歯科医によっては歯式や本数をお知らせしていないため、受診勧告を見ても現実味がなくスルーできる状態である。本校に入学する生徒は家庭的に厳しいことが多く高1の時点で(30.4%)虫歯がある。歯垢にチェックが入る人も(40.6%)。本校は学校歯科さんが非常に協力的で保健LHの講師を快く引き受けて下さり、実施して3年目であるが講演内容についての感想文で「歯磨きの仕方が分かった」歯磨き粉をたっぷりつけないとか歯ブラシを水でびしゃびしゃに濡らさないとかあまり強く押し当てないとか、細かいことですが家で習うことが教えてもらえてない。歯医者に行けば指導されることを知らない＝受診していないです。受診率がすごく上がったかといのは分かりませんが治療した形跡がある生徒や学年が進むにつれ歯垢や歯茎の状態にチェックが入る人は少なくなっています。僅かですが、少しは変化しているのではと思っています。歯磨きダンスもいいですが、虫歯や歯肉炎の放置例をテレビを流してほしいと思っています。歯科保健LHでは「月曜から夜ふかし」の歯がないとリンゴが噛めない映像が反響があった。皆起きて見入っていました。今の保健指導は優しく、責めないものが多いですが、歯に関しては危機感を持たせるくらいの方が自分の歯を大切にする行動に出るのではないかと思います。(学校名が特定できないように人数は消去し、パーセントを掲載した…高知保険医協会)	高等学校
9本虫歯のある児童が2名、7本虫歯がある児童が1名います。なかなか治療につながりにくく、難しい状態です。	その他
近くに歯科がないため、受診しにくい。また治療に保護者が行こうと思って下さっても、子ども自身が行きたくない。という場合があり、治療に行けない家庭もある。	その他

眼科分野事例【抜粋】	
どちらの児童についても定期的に視力検査をおこない学校での困り感を家族へ伝えたことで2学期以降に受診していただくことができた。	小学校
メガネを常時使用しているが定期的な検診をしていないため自身の視力にあったレンズでない。	小学校
年に複数回、受診の呼びかけをおこなっている。1～5年は100%受診済。6年生に3名未受診者がいる。	小学校

特別支援学級の児童で、正確な視力測定ができないので専門医の受診をすすめているが中々受診してもらえない。	小学校
視力低下により授業中の困難を本人も感じているが、受診しないため改善されない。	小学校
心因性を含めた診断がほしい。	小学校
メガネの度数が合っていない様子があるが受診していない。	小学校
保護者に呼びかけても受診しておらず苦慮している。	小学校
視力健診後、受診勧告を出しても受診につながらない。	中学校
メガネが必要と思われる視力測定結果があり家庭連絡をおこなっても、受診につながらない。	中学校
メガネを購入しない。矯正視力も低下していたが、未受診が続いた(現在は受診済)。	中学校
メガネの再調整。	中学校
今回は身体測定の次期が遅く、眼科受診のチャンスが冬休みしかなかったこと。平日は学校を遅刻か早退しないと眼科受診は難しいことも考えられる(土曜日は模試がある)。	高等学校
受診勧告に応じない。	高等学校
このくらいの視力なら受診しなくてもよいと思っている本人・保護者がいる。受診結果を提出していない生徒もいるので、もう少し受診率は高いかもしれない。	高等学校
視力検査の結果、受診した7名は1.2年生です。3年生は見えない状態に慣れて何度言っても行きません。他校では3年生になると自動車の運転免許を発行してもらえないから眼科に行くように言えばすぐに行っていました。視力が厳しい人にも免許出しているのでしょうか？うちの生徒は困ってないです。	高等学校
視力Bの生徒で本人が困ってないため受診をしてくれない。	高等学校
視力低下による困り感がなく受診につながらない。	高等学校

耳鼻科分野事例

受診の必要性を感じていない。	高等学校
「耳が痛い」「聞こえにくい」と訴えるが受診を勧めても受診していない。	高等学校

その他分野事例

校医健診で肥満と言われ、医療への受診が必要と判断されている児童からの相談がありました(体型、コンプレックス、運動しにくい等)。	小学校
生理痛	小学校
学校で個別指導をおこなっても、食生活、運動など肥満を改善していくためには家庭の協力が必要だが、あまり理解を得ることができず、投げかけていくのも難しい。	小学校
肥満でかかりつけ医に上限体重を決められているのにも関わらず定期的な通院はしておらず、学校で気を付けて体重を測ると上限体重を超えている。	小学校
肥満児童の保護者から体重増加は気になるが受診の必要があるのかとの相談があった。	小学校
不登校の児童。保護者は協力的だが、本児が受診を拒む。	小学校
授業に集中できないほどアトピーがかゆく、皮膚もただれていた。保護者に受診勧告を何度もしているが、受診につながらない。高度肥満児で保護者に連絡しても話ができず、面談もできず受診につながらない。	小学校

心電図 QT 延長の疑いで受診勧告を出したが、受診を検討中と聞いてはいるものの現在のところ受診につながっていない。	中学校
保護者に受診の必要性を説明しても理解してもらえず受診につながっていない。本人以上に保護者の変容が困難な事例が多い。保護者に課題があるケースが多い。	中学校
既往、新規の生徒がいるが、家庭に手紙配布、電話連絡をしても受診につながらない。	中学校
友人関係がうまく作れない。	中学校
親が癌の治療中で、精検に連れて行ってと言えない。	高等学校
内科検診で喘息のため要受診となったが、受診結果が未提出のままだった。(口頭で「受診をし治療を受けたが、結果は出しません」と本人より申し出がありました。)	高等学校
何度か受診の必要性を伝えたが受診につながらない。	高等学校
健診ではかかっていないが困難事例は多発しています。心の問題、精神科疾患があっても専門機関にかかれぬ。ADHD 等は特に親の困り感がないと専門機関に行かないし、予約しても半年後です。心臓検診にひっかかっても「学校から言ってきたのだから受診料を学校から出してくれないのか？」という問い合わせが毎年 1 件はあります。	高等学校